



[水田作部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

4. 岡山県南部における水稻品種「にこまる」と「アケボノ」の作業競合の回避

[要約]

高温登熟耐性が高い「にこまる」を6月上旬から中旬までに移植し、「アケボノ」を10日以上遅く移植することで、両品種の収量、外観品質、食味に大きく影響することなく、収穫期の作業競合が回避できる。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 作物・経営研究室

[連絡先] 電話086-955-0275

[分類] 情報

[背景・ねらい]

「にこまる」は高温登熟耐性が高く、「ヒノヒカリ」に代わる品種として県南部を中心とした栽培に適する。一方、県南平野部の大規模稲作経営では、作期の分散による労働時間の平準化が望まれており、特に収穫期における「アケボノ」との作業の競合が問題となっているため、作業競合が回避可能な作期を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 6月上旬から7月上旬までの移植栽培において、同時期に移植した「にこまる」、「アケボノ」の成熟期はほぼ同時期となる（図1）。「にこまる」の移植を「アケボノ」の10日前に行うと成熟期は8～9日早くなる（図1）。
2. 「にこまる」は6月上旬から7月上旬まで移植時期を変化させても収量には差はないが、作期が遅くなり6月下旬以降の移植になると、検査等級が低下し、食味値が70点台に下がる傾向がある（表1）。一方、「アケボノ」は6月上旬移植から7月上旬移植まで作期の違いによる収量、検査等級に差は無い。食味値については、作期が遅くなると、やや低下するが80点台である（表1）

[成果の活用面・留意点]

1. 「にこまる」の栽培適地である県南部に適応する。
2. 稚苗機械移植栽培で速効性化成肥料を用い窒素成分を8 kg/10a分施した結果である。
3. 移植時期が遅くなると食味が低下しやすいので注意する。
4. 食味値（HON値）はニレコ近赤外分光光度計で計測し、食味値80点以上は一般的に良食味とされる。



[具体的データ]

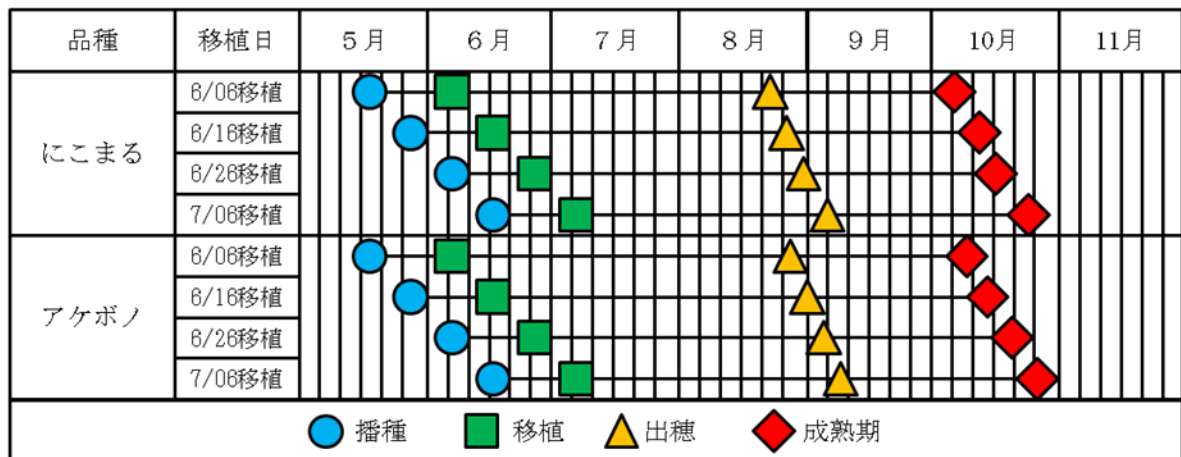


図1 作期の違いによる「にこまる」「アケボノ」の生育推移

注) 出穂時期は2次元ノンパラメトリクス法による生育予測による。

成熟期は出穂からの積算気温が「にこまる」では1,100℃、「アケボノ」では1,000℃とし岡山市のアメダスの気温を使い算出した。

表1 作期の変化が「にこまる」「アケボノ」の収量・品質・食味値に与える影響

年度	作期	品種	精玄米重 (kg/10a)	検査 等級	食味値 (HON値)
2014	6/13移植	にこまる	589	1等下	88.3
	7/07移植		587	1等下	72.2
	分散分析		n. s.		***
2015	6/21移植	にこまる	645	1等中	88.7
	7/07移植		671	2等下	74.2
	分散分析		n. s.		**
2016	6/17移植	にこまる	555	1等中	85.5
	6/27移植		598	1等下	79.5
	分散分析		n. s.		***

年度	作期	品種	精玄米重 (kg/10a)	検査 等級	食味値 (HON値)
2014	6/13移植	アケボノ	608	2等中	95.0
	7/07移植		618	1等下	88.4
	分散分析		n. s.		*
2015	6/21移植	アケボノ	603	3等上	93.4
	7/07移植		697	3等上	84.1
	分散分析		n. s.		**
2016	6/17移植	アケボノ	522	3等上	96.5
	6/27移植		486	3等中	83.1
	分散分析		n. s.		***

注) 表内の*、**、***はそれぞれ5%、1%、0.1%水準で有意であることを示し、n. s. は有意でないことを示す。

[その他]

研究課題名：きぬむすめ、にこまるの高品質生産技術の確立と温暖化対応品種の選定

予算区分：県単

研究期間：2012～2016 年度

研究担当者：水田有亮、井上智博、前田周平

関連情報等：1) [平成 24 年度試験研究主要成果、7-8](#)

2) [平成 26 年度試験研究主要成果、5-6](#)

3) [平成 27 年度試験研究主要成果、5-6](#)